

【令和 3 年度生駒市議会市民懇談会「防災について」

【開会宣言】 片山誠也委員長

皆さん、こんにちは。私は、生駒市議会広報広聴委員会委員長の片山誠也です。ただいまより、市民懇談会を開催いたします。

まずはじめに、生駒市議会中谷尚敬議長よりご挨拶があります。中谷議長よりしくお願いいたします。

【挨拶】 中谷尚敬議長

生駒市議会議長の中谷でございます。

生駒市議会では、開かれた議会を目指し、毎年度、市民懇談会を開催しております。

令和 3 年度も、昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンライン配信による開催とさせていただきます。

今回のテーマは、「防災について」です。

昨年 11 月に生駒市総合防災訓練が 5 年ぶりに実施され、私たち市議会議員もそれぞれの地域で避難訓練と避難所開設訓練に参加するとともに、議会の災害対応訓練を実施しました。

また、前回の訓練以降、市議会といたしましても、市内 57 か所の防災行政無線の設置や防災倉庫の設置など様々な防災関連予算を認めてまいりました。

近年、大規模な自然災害が相次ぐなか、本市においても、地域の災害リスクを知り、被害を最小限に抑えるため、事前の備えや適切な行動が重要となってまいります。

この後、順次説明させていただきますので、災害への心構えを高めていただくとともに、皆様のご意見もお寄せいただき、今後の市政や議会運営に活かしていきたいと考えております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【本日の流れ】 片山誠也委員長

次に、簡単に市民懇談会の流れについて、ご説明させていただきます。

まず、今回のテーマである防災について 3 つの項目に分けて、広報広聴委員会に所属する各議員よりご説明させていただきます。

最初に、「生駒市の災害リスクの現状」について、担当は山下議員、加藤議員となります。

次に、「防災設備・備品の現状」について、担当は竹内議員、改正議員となります。

次に、「災害への市議会の取組」について、担当は山田議員、沢田議員となります。

防災に関するご説明は以上となりますが、最後に中嶋副委員長より意見募集のご案内があります。以上が、市民懇談会の流れとなります。

それでは、まず、「生駒市の災害リスクの現状」について、山下議員よろしくお願いいたします。

【生駒市の災害リスクの現状】 山下一哉委員

ここでは、生駒市の災害リスクの現状についてご説明させていただきます。

これまで、奈良県は比較的災害が少ない地域だと言われてきましたが、様々な災害に襲われてきた歴史があります。

過去に近畿地方で被害が大きかった地震は、生駒断層帯や有馬・高槻断層帯など、内陸部の活断層を震源とする「内陸型地震」と、東南海・南海沖のプレートの落ち込みによって起こると考えられる「海溝型地震」に区分でき、これらのうち、奈良県内・近傍では、生駒断層帯付近でマグニチュード 6 クラスの地震が過去に数回発生した記録が残されているほか、東南海・南海沖で発生した南海地震等のマグニチュード 8 クラスの巨大地震において、県内で震度 5 以上の揺れを記録しています。

大規模な地震は、「いつ」「どこで」発生するか分からない状況にあり、日ごろからの備えが重要です。

【生駒市周辺の断層位置】 山下一哉委員

こちらは、内陸型地震の想定図です。

内陸型地震では、県地震被害想定調査の対象とされた、9つの断層での地震を想定します。

この 9つの断層は、市内にある断層の中で比較的地震の発生率の高いもの、もしくは被害が大きくなると想定される断層です。

【海溝型地震断層エリア】 山下一哉委員

こちらの図は、海溝型地震断層エリアを表したものです。

海溝型地震は、政府の中央防災会議「東南海、南海地震に関する専門調査会」で想定された、①から③の地震の同時発生及び、南海トラフのケースを想定しております。

【地震ハザードマップ(地盤のゆれやすさマップ)】 山下一哉委員

こちらの図は、地震ハザードマップの、地盤の揺れやすさを示したものです。国道 163 号線より北側の地域において、震度 7 を想定しているほか、市内の広域にわたって震度 6 強・震度 6 弱となることが想定されます。

【地震ハザードマップ(建物危険度マップ)】山下一哉委員

こちらの図は、地震ハザードマップの、建物の倒壊に関する危険度を示したものです。先程の地盤の揺れやすさに比例し、市内の多くの地域で建築物の倒壊率が10%から30%になると想定されています。

古くから形成された集落では、大規模地震発生時には強い揺れによる建物崩壊、また、木造住宅の密集、道幅が狭いことなどによる火災の拡大により、被害が甚大になる可能性があります。

ご自身のお住まいの地域で巨大地震が発生した場合、どのようなことになるかを、あくまで予測にはなりますが、この機会にぜひご確認いただきたいと思えます。

地震大国、日本において、備えの大切さを思わずにはられません。世界で発生するマグニチュード6以上の地震の約2割が日本周辺で発生しています。特に重要なのは、市民一人一人が「地震が来たらすぐに逃げる」意識をどれだけ高められるか、です。

今回の皆様への発信を「自分ごと」として捉えていただき、地域の避難訓練等に積極的に参加するなど、日ごろからの心がけを大切にしていきたいと思えます。

【ハザードマップについて】加藤裕美委員

皆さんのお住まいの地域のハザードマップをご覧になられたことはありますか。

ハザードマップは、避難所の位置や主要道路をはじめ、洪水の危険箇所、土砂崩れなどの警戒箇所、地震の際に地形や地盤の状況からみた揺れやすさなど各種の災害に関する地図情報です。

生駒市では土砂災害、ため池、洪水のハザードマップがありそれぞれの地域の地図が作成されています。生駒市のハザードマップはホームページからも閲覧でき、市役所の防災安全課でもお配りしています。

【適切な避難を行うために…】加藤裕美委員

いつ何時起こるか分からない災害時、自分や大切な人の命を守るためにも、生駒市ホームページの「防災」に関するページをこまめにチェックしていただけたらと思います。

【やってみよう！家族防災会議】加藤裕美委員

災害のとき、家族があわてずに行動できるように、実際に災害が発生したときのことを想定して、ポイント1から4を参考に、定期的に家族防災会議を開きましょう。

【防災の設備・備品の現状】 竹内ひろみ委員

次に防災の設備・備品の現況です。昨年 11 月 14 日に生駒市総合防災訓練が実施されました。

本来であれば 4 年ごとの実施ですが、コロナの影響で 1 年延期となりました。

前回の平成 28 年の総合防災訓練から今回令和 3 年の訓練までの 5 年間と期間を区切り、防災の設備、備品の状況を説明いたします。

まず平成 29 年 4 月から情報伝達の多重化の目的から、公共施設等 57 箇所に設置された屋外スピーカーを使用し、災害緊急情報等を発信しています。しかし、放送内容が聞こえにくいというご意見や、大雨や台風の際には窓を閉め切った状態となるなど、必要な情報が市民に届きにくい状況にあったため、屋外スピーカーで放送された内容を、電話で確認できるサービス「教えてダイヤル」の運用を平成 30 年 7 月より開始しています。

通話料はかかりますが、放送から 24 時間内容を確認することができます。電話番号は 050-5212-5255 になります。避難行動の判断の一つとしていただきたいと思います。

【公共施設の状況】 改正大祐委員

次に公共施設の状況です。

昨年公共施設の感染拡大防止策として大型冷風機、LP ガス発電機などが整備されました。

そして生駒市体育協会総合 S.C 体育館と生駒市体育協会滝寺 S.C 体育館には壁吊り型スポットクーラーが設置されました。

昨年 6 月 7 月にワクチンの大規模接種会場となり、実際にスポットクーラー、大型冷風機を使用し、室温が 3 度下がったという報告を受けております。体育館が避難所になった際、環境の改善の一助になるものと考えます。

【防災倉庫】 改正大祐委員

次に防災倉庫になります。これまで順次防災倉庫の整備を行ってきましたが、昨年感染拡大防止策として様々な備品を整備したことで、防災倉庫の設置も一気に進み小学校に 7 箇所、中学校 11 箇所、スポーツ施設に 7 箇所に設置され、当初予定されていた防災倉庫の設置事業は終了いたしました。

【防災倉庫の中身は…】 改正大祐委員

防災倉庫の中にはどういうものが入っているのかご存知でしょうか。

主なものを申し上げますと避難所開設に必要な受付テント、炊き出しに必要な調理セット、寸胴鍋、カセットコンロ、プロパンガス発電機、もちろん一緒に LP ガスも整備されています。

また、パック毛布やプライバシーを確保するためのパーティションが入っています。

非常食も入っているように思われる方も多いですが、防災倉庫が外にあり、日が当たり温度変化の影響を受けるため、南・北の各コミュニティセンターに集中して乾パン、アルファ米、缶詰パン、ライスクッキー、粉ミルク、液体ミルクが施設内の倉庫に備蓄されています。

また、非常食はローリングストックを行い、期限切れまでに防災訓練の際、試食に使うなど、有効活用を行っています。

【災害への市議会の取組】 山田耕三委員

私たちは令和元年度企画総務委員会で「地域と防災について」調査を行いました。

最初に、本市の現状と課題を確認し、先進事例のあるまちへ視察、これらの調査を基に、生駒市へ意見提案をおこないました。

【調査 1】 山田耕三委員

生駒市の現状や課題などを、生駒市防災安全課へヒアリングしました。

地域の防災の主体となる「自主防災会」の現状や課題などを確認しました。

【調査 2】 山田耕三委員

岡崎市では、平成 20 年 8 月豪雨で被災したことを契機に、ハード面の整備と、互いに助け合うソフト面の、2つの取組を行っています。

特に印象に残ったのは、防災指導員制度です。

各地区の防災組織リーダーを養成します。身分を、岡崎市非常勤特別職員としたことです。

【調査 3】 山田耕三委員

浜松市では、市民の防災に対する意識は高く、全町内会で自主防災隊があり訓練の実施率は 99%です。

浜松市避難所運営マニュアルには、避難所の運営は生駒市とは異なり、「避難者の自主運営を原則」としています。

地域防災リーダー養成では、3年間で1,000人を超える方が受講されていました。

【市への提案】 山田耕三委員

危機意識の醸成をふくめ、5項目を提案いたしました。

詳しくは生駒市議会ホームページをご覧ください。

【生駒市議会災害対策本部設置について】 沢田かおる委員

生駒市議会の災害時の行動についてお話しします。

平成 27 年 12 月定例会において、生駒市議会災害対策本部設置要綱及び生駒市議会災害対策行動マニュアルに基づく災害対策について、協議・調整を行うため、災害対策委員会を設置しました。

【生駒市議会災害対策本部設置要綱】 沢田かおる委員

災害対策本部設置要綱には、生駒市議会内に議会本部を設置、場所は市役所 5 階第一会議室であること、議員・議会事務局の役割分担などが記載されています。

【生駒市議会災害対策行動マニュアル】 沢田かおる委員

災害対策行動マニュアルです。

初動期には、議会本部を設置するとともに、議員の安否確認をし、連絡体制を構築します。

中期には、議会本部に参集し、本部長の指揮監督のもとに被災地、避難所における情報収集を行うとともに、市対策本部との情報共有を行います。

後期には、臨時会の招集に備え、市対策本部との連携のもとに、復旧・復興におけた市の取組等について検討します。

【令和 3 年度議会の災害対応訓練の実施について】 沢田かおる委員

市の総合防災訓練が、令和 3 年 11 月 14 日に行われ、生駒市議会も災害対応訓練を実施いたしました。

緊急速報メールの配信にともなうシェイクアウト訓練、議会本部の設置、居住地域の避難訓練に参加し、避難所に移動、ラインやショートメールにて安否確認、避難所開設訓練に参加しました。

【以上で「防災について」の報告を終わります】

【ご意見の送り先】 中嶋宏明副委員長

ご意見の送り先についてご案内いたします。

郵送の場合は、〒630-0288 生駒市東新町 8 番 38 号 生駒市議会事務局までお送りください。

ファクスの場合は、0743-74-9481 にお送りください。

今回は、オンラインアンケートをご用意させていただきました。生駒市議会市民懇談会のページに、URL アドレスを掲載しております。

また、この動画の下の概要欄「もっと見る」をクリックいただいたところに、URL を貼り付けておりますので、オンラインアンケートにご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

頂いたご意見などへの返信はいたしません。取りまとめを行い、市議会のホームページにて公開する予定です。

【市議会からのお知らせ】中嶋宏明副委員長

市議会からのお知らせです。

市議会では、議員定数に関する特別委員会を立ち上げ、現在調査を進めております。

調査の一つとして、市民意見を把握するため、今後無作為抽出によるアンケートとパブリックコメントを実施いたします。

詳細は決定次第、市議会ホームページ等でご案内いたします。

市民の皆様からの貴重なご意見を頂ければと思っております。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【閉会の挨拶】中嶋宏明副委員長

以上で、令和3年度市民懇談会を終了いたします。

最後までご視聴ありがとうございました。